

## 令和3年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■東根地区：12月21日（火）午後7時～8時30分 参加者数58名  
（うち、15人町職員）

白鷹町過疎地域持続的発展計画とこれからのまちづくり

### 《質疑応答》

- Q. 高齢者世帯の見守りについて、何か具体的な対策はあるかお聞きしたい。亡くなって数日経ってから見つかるケースもあると聞いた。
- A. (健康福祉課長) 今年度、「すこやか安心地域づくりモデル事業」に取り組んでいる。高齢者世帯への支援、安全の確保について、直接的、間接的な支援というところでは、各地区の民生委員に見守りいただくほか、各地区の役職員の方から情報をいただき、支援等が必要な方の把握に努めている。把握しきれないケースもあるが、なるべくそのようなことがないように、様々な支援を行っている。特に75歳以上の単身高齢者宅を訪問し、救急隊が到着した時にわかるような、緊急時の連絡先等が入った救急医療情報キットを配布している。また、介護保険サービスを利用している方については、ケアマネージャーにお願いして様子を伺ったり、コロナの影響でなかなか訪問できないため、職員が電話連絡による日常生活の聞き取りを行ったりしている。さらに、介護保険事業の中で、緊急通報装置の設置にも取り組んでいる。このように、なるべく悲しいことが起きないように努力しているが、お気づきの点があればご連絡いただきたい。
- Q. 「すこやか安心地域づくりモデル事業」の高齢者生活支援部会で、75歳以上の世帯への支援について、地区としてどんなことができるか話し合いをしてきた。どんなニーズがあるのか調査したところ、重いものを持つのが大変、交通手段がないという理由で買い物に困っているという声や、集積所までが遠くて冬場のゴミ出しが大変という声を聞くことができた。来年度から、そのようなことをサポートする活動ができなにか考えている。あまり前例がないため、高齢者に対する支援として、白鷹町にはどんな施策や事業があるのか、金銭面ではどんな助成があるかをお聞きしたい。
- A. (健康福祉課長) 高齢者の日常生活を支えるためには、直接的、間接的支援、介護保険のような社会扶助的な支援など様々ある。白鷹町として、高齢者世帯に対する取り組みとして、福祉分野では、所得の制限は設けているが、冬場の雪はきや雪下ろしの支援、そして、現在進めている暖房費の支援、訪問、様子伺いの電話等、様々な取り組みをしている。様々な相談に対して、健康福祉課の地域包括支援センターを中心に、その方に何が一番適しているのか、いろいろなところと相談して提案している。

できるだけ、きめ細やかな支援が行えるような体制はとっている。その他にも、運転免許証の自主返納に対する支援や、少しでも自分の力で生活ができるように健康寿命を延ばす支援等をしている。去年、町内にボランティア組織が結成され、介護保険の対象とならない人に対して、ゴミ出しの支援などを行っている聞いた。こちらからもいろいろ情報をお出しし、地域がそれぞれの課題に応じて、支え合いの仕組み作りを行っていただけるように考えていきたい。

Q. そういった活動をしたという時には、推進交付金、助成金等、サポートしていただけると活動しやすくなるので、よろしくお願ひしたい。

A. (健康福祉課長) まさに今回、東根地区で、来年度以降このような活動を試みたらどうかと、様々な意見をいただいていると担当者から聞いた。それこそ、私たちが求めていた、地域それぞれの課題に応じた、支え合いの仕組み作りだと思う。財政的な面では、現時点で、地域づくり推進交付金という自由度の高い交付金があるため、活用していただきたい。町としても、どのような支援ができるのかについて検討していく。

Q. 白鷹町では、どれくらい有害鳥獣の被害が出ているか。

里山の環境保全のために、町ではどんな支援を行っていただけるか。

有害鳥獣について、農産物への被害もそうだが、人に危害を加えることも懸念されるため、対策について考えていただければと思う。

A. (農林課長) 被害額については、今回資料がないので、後日コミセンを通じてお知らせする。

里山に対する支援については、令和元年から、県の緑環境税というものを活用し、森林整備に関する「荒廃森林緊急整備事業」を実施している。具体的には、ふるさと森林公園、鮎貝の教育の森周辺の除伐、枯れ木の伐倒、森林景観整備、下刈り、野生動物との緩衝帯整備など取り組みをしている。また、国の、森林・山村多面的機能発揮対策交付金があるが、それだけでは足りない部分を、町で支援している。里山については、私有地が多く、個人の財産になるので、基本的に所有者の管理になる。町が手を加えるとなると、レクリエーション等の保健文化機能の維持増進を図るための森林整備になるので、そちらを優先的に対応している。

地域の方が主体になって実施する取り組みを支援する補助事業もあるので、合うか合わないかあると思うが、合致させられるように、ご相談を含めて活動を応援したい。

(町長) 今までは、駆除した動物を埋設していたが、それでは処理が追い付かないということで、置賜に1箇所焼却施設を作りたいと研究している。また、田んぼは、一

度イノシシに入られるとだめになってしまうそう。様々な市町村が被害にあっている。イノシシに我々の生活が狭められている。クマは、まだ人が襲われたという例はないが、不安である。だが、今一番必要なことは、境界の明確化である。現在東側で進んでいるが、西側も進める必要がある。レーザー航測など、我々も対策をしている。素晴らしい山がたくさんあるが、境界がわからないため手をかけられない。境界が分かれば、里山の部分の整備もできるようになる。

- Q. 境界明確化について、林班図をデータで欲しかったが、町からは縮図の管理がなかなか難しいため、紙ベースでしか渡せないと言われた。デジタルデータでないという意味がないため、県にお願いしたところ、独自の技術でもらうことができ、利用させてもらっている。デジタル化ということを考えたとき、こういうところもできるようにしていただきたい。

毎年豪雨災害がある中で、畔藤財産区の山を全伐するのはいかななものか。植林はすると思うが、それが育つ前に災害が起きたらどうするのか。具体的なところを聞きたい。

- A. (農林課長) 林班図については、ライセンスの関係などもあり、そういう形になってしまったのだと思うが、持ち帰って今後考えていきたい。
- 全伐については、おっしゃったように、やみくもに切ってしまうのは、そのような危険をはらんでいる。専門家から、災害を起こさない木の切り方というものがあること、路網(作業道)の整備についても、災害を起こさない方法があることを聞いている。安全な方法というものを、これから本格的に進めていきたいと思っているので、その都度ご相談いただきたい。

- Q. イノシシについて、町として個体調整をどうしていくかを考えていただきたい。
- また、農作物を出荷して、お金を稼いでいるような人には、別のところからの補助金があるような話も聞くので、紹介していただきたい。

豚熱の感染が確認されたが、感染力はどの程度のものか。それによってイノシシが自然消滅することはないのか。

- A. (農林課長) イノシシの個体調整の取り組みとしては、猟友会と連携しながら、罠を仕掛けて駆除等を行っている。今まではくくり罠という、一度に一頭ずつしか捕獲できない罠を仕掛けていたが、複数を一度に捕獲できる、囲い罠を先日、対策協議会を中心に購入した。ICTを活用して、イノシシが罠に対して警戒を解き、慣れてきたときに捕獲できるような装置が付いているものなので、それを設置し、個体数調整に努めていきたい。

豚熱に関しては、養豚場も近いので、もしものことがあってはならないということで、協議会では、先ほどの罠を小山沢に設置し、養豚場へ影響が出ないようにしてい

く。

電気柵については、販売農家について、県の補助事業や国の補助事業がある。杉沢地区では、地域ぐるみでまとまって、個別ではなく、大きな電気柵を設置しようという取り組みをしている。地域ぐるみの取り組みを応援したいということで、今年から、取り組んでいる。今年、杉沢と高岡で取り組んだ。地域ぐるみで設置した方が、効果が上がる。来年度も積極的に取り組んでいただきたい。

豚熱によりイノシシが減っているという猟師の話もある。病気は怖いので、そちらにも気を付けながら対策を行っていく。

- Q. 財産区議員の立候補時の供託金が 15 万円必要と法律で決まったようだ。立候補の障害になると思われる。畔藤財産区と浅立財産区は来年度に選挙があるが、その際に町から補助はあるのかお聞きしたい。
- A. (総務課長) その件については議会の方でも質問が出た。公職選挙法により、一旦は払ってもらい、いずれ返ってくる。町としてどうするかはまだないが、田舎の財産区にはすぐわかない内容ではないかと県には伝えてある。すぐ改正になるかはわからないが、そのまま納めていただくことになると思う。昨年度、中山財産区が該当したが、工夫して貸付金として出した。現時点では、町で補助することはできない。
- Q. 鳥獣について、白鷹町の捕獲計画の頭数をみると、数が非常に少ない。町下地区でカメラを設置して調査した結果、かなりの頭数がいたにもかかわらず、タヌキは年 10 頭だけである。クマも毎年目撃するので、けが人が出る前に数字の見直しをお願いしたい。達成できなくても良いので、目標は高く設定してもらいたい。
- A. (農林課長) 数字については、対策協議会の方で決定したもの。頭数については今後詳細の見直しをしていく。イノシシは昨年度の目標値は 50 だったが、100 まで上げている。クマは危険な動物でもあるが、保護動物でもある。むやみやたらに駆除できないため、目標にあげている数字でしか駆除できない。中動物については、自宅を駆除、処分しても構わないとしている。町のホームページにも載っているので確認していただきたい。
- Q. 電気柵が非常に効果的なのはわかるが、草刈りなどの管理が難しい。こうした方が良いという情報があったらいただきたい。
- A. (農林課長) 今のところ草刈り機で刈っていただくか、除草剤を散布いただくしか方法はない。調べてみてそれ以外の方法があればお知らせする。
- Q. コミュニティビジネス構想で、地元の材料を使った新製品を開発し、試食会を行った。これからの地域おこしの材料として、サッカー場の環境も活かしながら、取り組

んでいる。岡の台ごんぼを練りこんだうどんを作ろうとしているが、乾燥から粉末にするまでの作業が非常に大変。ゴボウの香りがするうどんを作りたいと、頑張って改良を重ねている。引き続きご支援をお願いしたい。

- A. (企画政策課長) コミセンだからこそその活動であると思う。今後も地域づくり推進交付金を継続して活用していただきたい。商品開発や6次産業化については、段階に応じて様々な制度があるので、相談していただきたい。